

米づくり情報 (NO. 4)

令和8年8月13日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7	3	26.1	29.5	30.0	33.9	23.1	26.0	59.0	0.0	23.5	42.7
	4	26.7	29.6	30.9	34.1	23.5	26.9	42.4	0.0	28.3	29.9
	5	27.2	29.3	31.6	34.7	23.9	24.6	39.1	0.0	32.3	58.3
	6	27.6	29.3	32.1	34.1	24.2	25.0	44.3	0.0	41.4	52.3
8	1	27.8	29.9	32.5	35.2	24.2	25.9	34.7	0.0	34.9	49.6
	2	27.8	30.3	32.5	34.9	24.2	25.9	38.7	0.0	33.4	27.0

【7月3半旬～8月2半旬の気象概況】

- ・平均気温は平年より約 2.45℃高く、全体的に高温傾向。
- ・降雨はなく、干ばつ傾向。
- ・日照時間は、平年比 134%と多日照。

2 生育状況 (8月13日)

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (c m)	茎数 (本／㎡)	葉 齢 (L)	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 東山代町脇野	5/30	本年値	出穂期8月5日				出穂は平年と同等。
	5/30	平年値	出穂期8月6日				
		平年比(差)	－1日				
ひなたまる 松浦町桃川	6/19	本年値	76.2	393	13.5	38.1	※今年度調査開始のため、 平年値なし

(耕種概要)

- ・「夢しずく」「ひなたまる」の耕種概要は稲作情報 No.1～3を参照。

【情報田ウンカ類調査結果 (25株あたり)】 (調査日 8月13日)

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ(成 虫)	ヒメトビ ウンカ(成 虫)	ウンカ類 (幼虫)
ひなたまる	松浦町	6/19	0	0	0	0

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（8月6日）

本年産水稻の生育状況(8月6日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年または平均との比較)	
6月18日	夢しずく	本 年	84.5	375	12.6	40.0	【気象】 7月30日～8月5日まで ◆平均気温…2.8℃高い ◆日照時間…長い(平年比 129%) ◆降水量…少ない(平年比 0%) 【生育】 ◆草丈 「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」はやや低く、「夢しずく」、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「さがびより」は少なく、「ヒノヒカリ」はやや少なく、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「ひなたまる」はやや少なく、「夢しずく」は平年並み、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」、「さがびより」はやや多い。 ◆葉色(SPAD 値) 「ヒヨクモチ」は淡く、「夢しずく」、「さがびより」は平年並み、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」はやや濃い。	
		平 年	83.8	402	12.6	39.6		
		平年比(差)	101	93	(±0)	(+0.4)		
	ヒノヒカリ	本 年	73.3	491	12.9	38.6		
		平 年	75.1	514	12.4	37.5		
		平年比(差)	98	96	(+0.5)	(+1.1)		
	ひなたまる	本 年	72.1	471	12.7	39.3		
		平均(2か年)	74.8	405	13.2	41.1		
		平均比(差)	96	116	(-0.5)	(-1.8)		
6月19日	さがびより	本 年	72.7	453	12.8	38.6		
		平 年	72.3	505	12.6	38.5		
		平年比(差)	101	90	(+0.2)	(+0.1)		
	ヒヨクモチ	本 年	71.7	863	13.2	35.9		
		平 年	66.3	741	13.0	38.7		
		平年比(差)	108	116	(+0.2)	(-2.8)		
	留意点	○「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は幼穂形成期を迎えており、「さがびより」、「ヒヨクモチ」もまもなく幼穂形成始期となる。 ○施肥管理: 登熟期の窒素不足は、背白粒・基部未熟粒や胴割粒等の発生を助長するため、穂肥診断に基づき適正量の穂肥を必ず施用する。「ヒヨクモチ」や「ヒノヒカリ」専用の全量基肥肥料を使用した圃場では、幼穂形成期～穂ばらみ期頃に葉色の低下がみられる場合は追肥を施用する。 ○水管理: 早生品種は、穂ばらみ期～穂揃い期まで浅水管理を行う。中生品種は、引き続き間断灌水を行う。晩生品種は、幼穂形成期前までには中干しを終了し、その後は間断灌水に切り替える。 ただし、台風や乾燥風・強風時には湛水し、稲体からの水分蒸散抑制に努める。 ○本年は、斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される。畦畔の除草作業は出穂 10 日前までに行うとともに、適期防除に努める。 ○病害虫防除: 農試作況「ヒヨクモチ」において、紋枯病およびウンカ類若齢幼虫の発生が確認されている。 農業技術防除センターの発生予察情報や地域での発生状況を確認し、適期防除に努める。 ●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)より確認ください。 https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html						

【幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/27(-1)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	8/4(±0)	8/4	未	8/27
ひなたまる	8/5(+2)	8/3	未	8/25
さがびより	未	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	未	8/14	未	9/5

※8/6 現在「さがびより」主茎幼穂長 0.3mm 程度

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・5月上中旬移植の夢しずくは、現在、乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・薬剤によるカメムシの防除を徹底する。
- ・また、早期落水による米の品質低下を防ぐため、収穫の7日前までは間断灌水を行い、必ず圃場に水を通すようにする。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・穂ばらみ期～出穂期を迎えている。
- ・穂ばらみ期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように湛水管理を徹底する。
- ・この時期は強風による蒸散の影響を最も受けやすいため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による葉先の裂傷や籾擦れなどの被害を緩和するよう努める。

3) 普通期水稻「ひなたまる」

- ・幼穂形成期を迎えている。中干し作業は終了し、間断灌水へ移行する。
- ・紋枯病が多発する圃場や、多肥・過繁茂の圃場は発消長によっては被害が大きくなる可能性があるため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。
- ・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《ひなたまる 穂肥診断基準》

幼穂長 1 mm時の草丈 (cm)	葉色 (SPAD 値)	穂肥施用量 (kg/10a)	
		窒素成分	BB602
77 cm未満	42 以上	1.5kg	10kg
	42 未満	3.0kg	18kg
77 cm以上	42 以上	施用しない	—
	42 未満	3.0kg	18kg

※幼穂の長さが 5 mm程度（出穂 18～20 日前）の時に施用。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断基準に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤ 穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない。

4) 共通

(干ばつ)

- ・ 幼穂形成期から出穂期が最も要水量が大きい時期であるため、幼穂形成期以降は間断灌水を行い、減数分裂期（出穂 10 日前）～穂揃期までは湛水を長めにとるように心がける（この期間は最低でも黒乾状態とし、できれば湿潤とする）。
- ・ 被害の目安としては、日中は若干萎凋していたとしても、朝夕は正常に戻っていれば被害は最小限に抑えることができる。穂ばらみ期に葉の先端の水孔からの排水が止まる（日暮れになっても先端に水滴がつかない）と白穂の危険性がある。
- ・ 幼穂形成期に白乾で経過し、穂ばらみ期に急激に灌水状態とすると、根の活力が失われるなどして、登熟不良になることが懸念される。したがって、最初は「はしり水」などして湿潤状態で経過させ、その後湛水するようにする。
- ・ 少ない用水を効率的に利用するためには、溝切を実施することが効果的である。
- ・ 蒸発散量の少ない夕方から未明での灌水が、水稻の萎凋・枯死の被害を軽減できる。
- ・ 干ばつ後は土壌中の無機態窒素が増加し、水を得ると一気に水稻が吸収するので、異常伸長など水稻の生育にも影響があり、いもち病の発生を助長することもあるため、干ばつ後の入水・降水後に直ぐ施肥を行うことは避ける。
- ・ 干ばつが長く続くと、クレークに面した畦畔沿いに深い亀裂が生じて土手が崩落する「法（のり）落ち」が発生しやすいので、土手沿い畦畔の内側には敷きワラ等を行い過乾燥防止に努める。
- ・ モグラやカニ類の影響で畔から漏水しているほ場が見受けられるため、水田の周囲も再度確認し、少しでも水持ちがよくなるように努める。
- ・ 用水路には用水以外にも水草などが流れてくることがあり、これらが詰まって下流に水が流れないことがある。水田だけでなく用水路の見回り・維持管理により確実な用水の確保に努める。

病害虫発生予察情報予報第 4 号（8 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農業危害防止運動期間です。

農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稲 (早期)	紋枯病	並	  クモリカメシ ホリカメシ
	斑点米カメムシ類	多	
水稲 (山間早植え)	穂いもち	やや少	
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	多	
水稲 (普通期)	穂いもち	やや少	
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	多	
			  トビイロウンカ コブノメイガ
水稲全般	1. 斑点米カメムシ類 水稲の出穂 10 日前までに圃場内及び圃場周辺の除草を行う。本年は多発生が予想されるため、穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）に薬剤防除を行う。イネカメムシは水稲の出穂初めから穂を吸汁して不稔及び基部斑点米を生じさせるため、出穂前にイネカメムシの発生を認めた圃場では、発生状況に応じて出穂期も防除を行う。 (令和 8 年 7 月 29 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号参照)		
	2. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 20～10 日前を目安とする）に防除を徹底する。		
水稲全般	1. トビイロウンカ 本年は飛来が断続的に認められ、飛来量も多いため、今後の発生に十分注意する。発生状況は、田植え時期、水稲の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通図 1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。		
	2. コブノメイガ 地域によっては、幼虫の食害が多いため、今後の発生に注意する。止葉を含む上位 3 葉への被害を防止するため、発生予測図（共通図 2）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の 7 日後）に防除を実施する。		

（紋枯病）

- ・ 8 月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・ 近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂 10～20 日前を目安とする）
- ・ 病斑が上位 3 葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

（斑点米カメムシ）

- ・ 平年よりも発生が多く認められ、斑点米の発生による等級低下が懸念される。
- ・ 7月29日に農業技術防除センターより注意報が出されており。警戒が必要。
 - ・ 九州北部の1か月予報では、向こう一か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生・活動に好適な条件が続くため、警戒が必要。
- ・ 圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、**除草作業を出穂10日前までに行う**。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・ **薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。**
- ・ イネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除に加え、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。

佐 農 技 防 第 385 号
令和 8 年 7 月 29 日

病虫害発生予察注意報第4号

佐賀県

作物名：早植え及び普通期水稻

病虫害名：斑点米カメムシ類

1. 注意報の内容

発生地域：早植え及び普通期水稻栽培地域

発生量：平年より多い



クモヘリカメムシ成虫

2. 注意報発令の根拠

1) イネ科雑草地での発生状況

7月15～21日に行ったイネ科雑草におけるすくい取り調査（18地点）では、クモヘリカメムシの成虫・幼虫ともに平年より多く、ホソハリカメムシの成虫は平年よりやや多く、幼虫は平年より多かった（表1）。これらは斑点米を生じやすい種であり、幼虫の発生も多いことから、今後も発生が多く推移すると考えられる。

表1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果（7月後半調査）

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカシガシカメムシ		シラホカメムシ類		ミナミアカメムシ	イネカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫	幼虫
本年（R8）	15.2	11.0	2.6	1.4	0.3	0.1	8.8	6.7	0.06	0.3	0
平年比	多	多	やや多	多	並	やや少	やや少	並	並	多	並
平年	2.9	3.0	1.9	0.5	0.2	0.5	13.3	7.6	0.03	0.02	0
前年（R7）	1.7	0.6	4.1	0.1	0.1	0.6	14.2	8.6	0.2	0.2	0

注）表中の数値は、すくい取り調査（捕虫網20回振り）における地点当たりの平均捕獲虫数。

平年値は過去10年（H28～R7）の平均値。

4) 防除対策の詳細は「佐賀県総合防除計画（佐賀県病害虫防除のてびき）」を参照する。

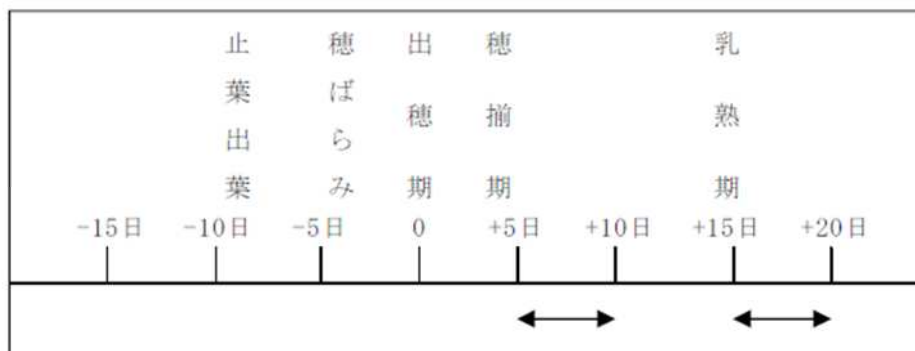


図1 斑点米カメムシ類の防除適期

(いもち病)

- ・ 7 月から好天が続いているため、感染好適条件は発生していないが、常発地帯では引き続き注意して圃場を観察する。
- ・ 進展型病斑が確認された場合は、速やかにオリブライト 250G 等で適切に防除を実施する。（ただし、オリブライト 250G の使用時期は出穂 10 日前まで）
- ・ 窒素過多は発生を助長するので、病斑が見られる圃場では穂肥施用量を減らすなど適切な肥培管理を行なう。

BLASTAM情報第6号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2025年8月7日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	●	3	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	31日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
 ●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
 —：好適条件の出現なし

(ウンカ類)

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～7月20日に断続的に飛来が確認されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

海外飛来性害虫情報第9号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況)（令和8年7月31日更新）

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラップ (20W蜜)	伊万里市 フェロモン トラップ	白石町 フェロモン トラップ	武雄市 粘着トラップ (20W蜜)	諫早市 フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0			0			0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0			0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0		0			0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0		0			0	1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0			0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0	0		0			0	0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0	0		0			0	0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1			0			5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0			0			44	8
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1			0			12	12
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			22	6
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0			0			11	1
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0	0		0			1	0
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0	0		0			10	1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0			0			1	0
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0			0			1	0
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1			0			0	0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0	0		0			0	0
	30日	0	0	0	0	0	3	0	0	0		0			1	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	1	2	0	0	0			4	0
	2日	0	11	0	0	0	7	5	0	0	0	0			4	0
	3日	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0			4	0
	4日	0	22	0	0	0	46	2	0	0	0	0			0	0
	5日	1	3	0	0	2	32	0	0	0	0	0			0	0
	6日	0	99	0	0	2	111	0	0	0	0	0			4	0
	7日	0	25	0	0	0	32	0	1	0	0	0			0	0
	8日	0	3	0	0	1	5	0	0	1	0	0			0	0
	9日	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			7	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	12日	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0			0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0			3	0
	15日	0	1	0	0	0	11	0	0	0	0	0			0	0
	16日	0	7	0		0	31	0		0	0	0				
	17日	0	9	0		0	67	0		0	1	0				
	18日	0	9	0	0	1	48	0	0	0	0	0			8	1
	19日	0	5	0		1	37	0		0	0	0			0	0
	20日	0	5	0		0	6	0		0	0	0			0	0
	21日	0	2	0		0	1	1		1	0	0			5	2
	22日		0	0			1	0	2			0			1	
	23日		0	0	0		0	2				0			14	19
	24日		0				2					0				
	25日		0				0					0				
	26日		0				0					0				
	27日		0				0					0				

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月1～2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ防除適期（例）

1回目 8/20～8/24

2回目 9/18～9/24

コブノメイガ防除適期（例）

1回目 8/8～8/22

2回目 9/11～9/26

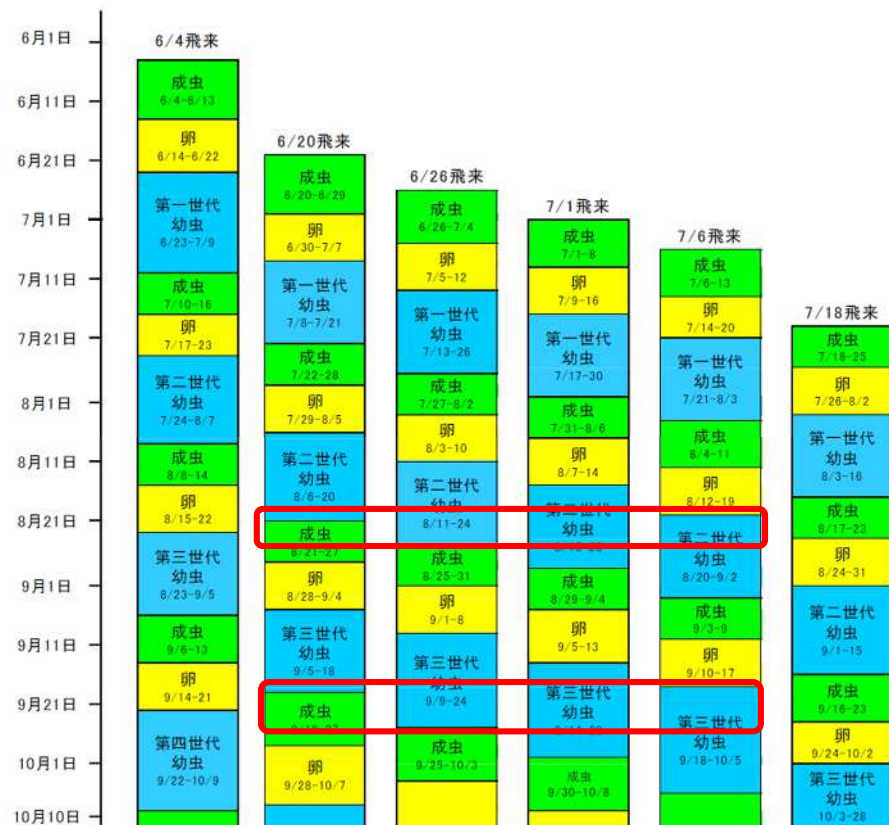


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）



図3 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 ：真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 ：真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 （体側の色が濃い場合あり）	 ：斜め後ろ

		トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
幼虫	成虫			
	若齢			
	中齢～老齢			

令和8年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

